

# 3がつのくもの子の会だより

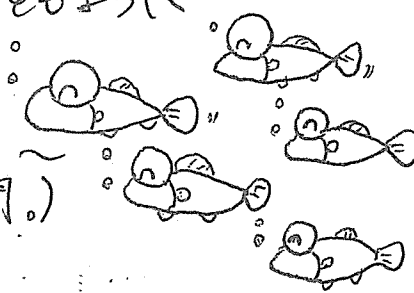
<H.30.3.1>

さて今年度も終了の3月ですね。

2月にはいって、又し振りに、くもの子の会の参加者があり、嬉しい年度末になっています。続けていてよかったです...と思いましたが、また、引き続き、4月からも...と思っています。

今年度も、二のおたまりを読んでいただき、また、影で応援、参加して下さった方々、ありがとうございます。今後ともよろしくお祈りします。

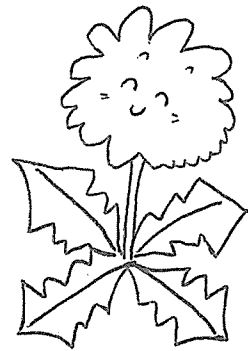
家庭を「ニニにいたい」と思える場所には  
(乳幼児期は、子どもにとって愛情と安心の充電期間。)



## < 子どもの今に向き合うことを大切に >

特に乳幼児期の親のかかわりは、子どもの育ちを左右するとも言っても過言ではないでしょう。それは、厳しくするにしても甘やかすにしてもありません。子どものSOSをしっかりとキャッチして、その背景にあるワケを考え、子どもの気持ちを理解する子にたとえて考えます。

先の心配ではなく、子どもの今に向き合うことはそれが大切だと考えますが、陥りやすい将来への焦りや、もう少し頑張らせたいたいという無理をさせてしまう親心が、それを悪化させてしまうことがあります。今のあなたの子育てを、この機会に振り返ってみましょう。



## 心が荒れる家庭の5大特徴

- ① いつも誰かと比べる
- ② 苦手なことをばかりを頑張らせる
- ③ いつも親が目標を決めてしまう
- ④ 子どもの話を聞かずに頭ごなしに叱る
- ⑤ 夫婦ゲンカを子どもに見せる

- ① いつも誰かと比べる  
「負けな、頑張れ」と子どもを奮起させようとして、きつい言葉、同級生、近所、親戚の子どもと比べることは、子どものバネを折るのと同じです。「お父ちゃんもってできたのよ」と言われると、「自分で自分はダメなんだ」と思ってしまう。(後略)
- ② 苦手なことをばかりを頑張らせる。  
親は子どもの得意なことをより苦手なことが気になります。運動が苦手なら体操教室に通わせ、お絵描きが下手なら絵画教室に通わせるなど、つい苦手克服を考えた時、しかし苦手なことで、子どもは楽しんで教室に通いません。苦手なことで、もちろん上手にできるわけもなく、たまたまの嫌な経験を積み重ねるようになります。生きていく力の基礎を育てる時期に、嫌な経験をベースになると、大きくなったときに嫌なことを思い出し、それが荒れにつながります。
- ③ いつも親が目標を決めてしまう  
子どものためによかれと思って用意したり、道を作ったり、親の役割だと甚か違っていないでしょうか。子どものために、心を砕いているように見えますが、子どもから「自分で努力」を奪っています。自分の取るべき行動や目標が決められ、誰かに決めてもらわないと不安な子になってしまいます。小さいときは親に従順で、親にとっては都合がよかったです。としても、社会に出る時期に、その弊害が現われてきます。少々危ないとしても、幼児期から子どもの気持ちを尊重して、親の都合で振り回さない子育てをするには、子どもの自立する力を育てます。

④ 子どもの話を聞かずに頭ごなしに叱る

子どもが大人から見て困ったことをしてしまつたとき、子どもには「どうしてほつた」理由があります。しかし、「なぜしてんの？」と親は見下して、「理由はどうあれダメなものはダメ！」と頭ごなしに叱つてしまいます。

子どもは、そのときは「ごめんなさい」と言つたとしても、納得できずにモヤモヤは残つています。その気持ちから、友達をいじめたりする「いじめ」につながつてくることもあります。何か事が起つたときは必ず理由があると考え、子どもの話を聞く姿勢をもつことが、子どもの親への信頼につながります。

⑤ 夫婦ゲンカを子どもに見せる

パパとママが大きな声で言い合いをする時、子どもはとても緊張します。口を利かずに険悪な空気が流れる時、ママがパパのグチを子どもに漏らしたりすると、子どもはとても不安になります。家庭が安心できる場でないといふ、元気に園や学校に行けません。

パパとママも人間ですから、時にはお互いに行つたこともあつたでしょう。ちよつとけんかの口論は、どんな家庭でもあることです。しかし、そのときに子どもは不安で、緊張しながらその場にいることを忘れないでほしい。適当なところで休戦して、にこやかに子どもを安心させましょう。

（のびのび育て、  
心が荒れる家庭、  
やさしく育つ家庭より）

～ 子どもの「心の荒れ」のサインに気づいたら～

親が気をつけていても、子どもの心が荒れてしまうことはあります。心が荒れてくると、「ささいなことで機嫌が悪くなつて泣く、普段よりも怒り、ぼろぼろになる」「ものの扱いが乱暴になる」「きめだいにやめさせる」「おどろかす」「やたらと甘えてくる」「着替や歯磨きなど、今まで一人でできたことをやろうとしないようになる」「落ち着きかなくなる」……子どもの様子がみられることがあります。その心には、不安や不満、さびしさ、言葉にできない悔しさなどがあふれているのかもしれない。

～ ぶれあいを通し「共感性」を育むことが大切。～

そんなときに、親としてまずすべきことは、スキンシップです。普段以上にぎゅっと抱きかかると、体をくっつけて遊んだりせよ、意識にわが子とぶれあいましょ。

そして、子どもに「共感する」と。子どもの心からわき上がる怒りや悲しみのネガティブな感情や欲求、衝動をコントロールするのは子ども自身ですが、親が普段から子どもに共感し、肯定的な言葉で関わることで、子どもは自らそれを上手にコントロールできるようになっていきます。

<同じく、のびのび子育て>

